

波乱万丈の生涯 — 李香蘭 (1)

和田 宏

■李香蘭の妹と対面

『わんりい』の読者の皆さんなら、李香蘭（1920.2.12～2014.9.7 享年 94 歳）のことはよく知っておられるだろうから、私の勝手なエピソードを書かせていただこうと思う。2018 年 4 月、浅利慶太氏演出の劇団四季のミュージカル『李香蘭』を浜松町の自由劇場に見に行った際、ミュージカルの中休みに、たまたま私の後ろに座っていた綺麗な老女が中国語で話しているの、私は『你是中国人吗？（貴女は中国人か？）』と話しかけたら、『我是李香兰的妹妹。（私は李香蘭の妹です。）』と答えた。私は、『真的吗!？（本当か!？）』と驚いて飛び上がった。直ぐにツーショットを撮らせて戴いた。彼女は、『中国で生まれたから、中国語を話すのは簡単よ。』と答え、そのあと私に、『你猜猜我的岁？（貴方、私の年齢を当ててごらん？）』とおっしゃったので、私が、とっさに『八十五岁』と言ったら、ずばり当たった。10 歳くらい若く言ってあげたら良かったかなあ～。彼女は、李香蘭の妹・山崎（旧姓：山口）誠子さん（東京都在住）であったのだ！



李香蘭 (ウィキペディアから)

李香蘭は、浅利氏との対談の中で、『1991 年 1 月の初演以来、しばしばこのミュージカルを見に来ました。その度毎に戦争の残酷さと自身の弱さ、醜さ、至らなさを嘔み締めていました。孫平化さんからは日中の懸け橋になって下さい。いつでも故郷は貴女を歓迎しますよと言われた。』と話し、これに対して浅利氏は、『李香蘭が漢奸として捉えられ軍事裁判

にかけられながら帰国できたのは、蒋介石が、“以德報怨”という東洋の教えを重んじたからで、その“以德報怨”をミュージカルの最後に裁判長に言わせた。』と語っている。

■生い立ちと中国語の習い始め

山口淑子は 1920 年 2 月 12 日、当時の中華民国奉天省の炭鉱の町、奉天北煙台で、佐賀県出身の満鉄社員の父・山口文雄と福岡県出身の母・アイの 6 人姉弟の長女として生まれた。生後間もなく撫順市に転居。4 歳の頃から淑子に中国語の基礎を教えたのは父であるが、撫順女学校に通った 13 歳の淑子が、父の友人、李際春の第二夫人の家に同居した際、纏足をしていたこの女性からも北京語を教えてもらった。そのお陰で淑子は中国語の国家検定 2 等に合格した。

■名前の由来と歌手デビュー

満州国建国の 1932 年、奉天市に引っ越しし、12 歳になった淑子は、肺浸潤にかかったあと、その回復に良いからと親友のリュバに勧められて、ロシア人と結婚していたイタリア人ソプラノ歌手、マダム・ポドレソフから声楽を習う。またこの頃に、父が親しく付き合っていた山東省の軍閥で、当時は瀋陽銀行総裁だった李際春の乾姑娘（名目上の娘）として李の姓を貰い、名を父の俳号の香蘭とした。李



左は筆者（72）李香蘭の妹・山崎誠子さん（85）。2018 年 4 月 10 日、自由劇場で（括弧内年齢は当時）

際春は回族でイスラム教徒である。翌 1933 年、奉天ヤマトホテルで開かれたポドレソフのリサイタルの前座に、着物姿の李香蘭がシューベルトのセレナーデなど 4 曲歌ったところ、奉天放送局の目にとまり、スカウトされた。『満州新歌曲』という番組で放送する際、芸名をどうするかという話になり、淑子の方から李香蘭の名前を提案し、局側もこれに応じ、放送ではあえて経歴の説明を省いて“歌は李香蘭”とだけ告げ、ラジオ放送された。李香蘭 13 歳の歌手誕生である。

■女優デビュー

1934 年、両親と共に北京に移住し、父の友人の潘毓桂の乾姑娘となって、14 歳で北京のミッションスクール翊教女学校に通った。この時使用した名前は潘淑華。盧溝橋事件翌年の 1938 年 9 月、翊教女学校を卒業した 18 歳の彼女は、今度は、満州映画協会にスカウトされた。歌の吹き替えだけと言われて列車に乗せられ、連れて行かれたところが新京（長春）

の満映撮影所だった。フィルムが回り、李香蘭は意に染まないまま演技させられ、『蜜月快車』という映画の主役となった。李香蘭 18 歳の女優デビューである。映画の中で、中国人男優・杜寒星に平手打ちをしている。1940 年公開の映画『支那の夜』では、逆に李香蘭が長谷川一夫から平手打ちを受け、一転して従順になるシーンがあり、これが中国人の反感を買ひ、後年の漢奸裁判の焦点となった。1938 年 10 月、李香蘭は人気が出て、中国から“日満親善女優使節”として初来日。18 歳の彼女にとっては初めて“祖国”日本の地を踏んだ。中国服を着ていた李香蘭は、下関の入国係官からパスポートを確認され、“山口淑子芸名・李香蘭”とあるのを見つけた係官が、『一等国民の日本人が三等国の中国の服なんか着て、恥かしくないのか。それでも日本人か。日本帝国臣民なら日本語を覚え！』と怒鳴られた。彼女は生まれ育った“母国”中国を日



「迎春花」の DVD

本人は蔑んでいたことに気づかされ、胸がえぐられた。実は、私がコンビニ店で働いている中国人留学生に中国語で話しかけ、中国人からは“那么、你的故乡在哪儿？（ならばお前の故郷はどこか？）”と聞かれて、私を中国人と勘違いしているなど、ほくそ笑んだり、逆に電車の中で中国語で喋っていたら、日本人の若いチンピラから、『中国人め、うるさいな！ 帰れー！』と怒鳴られたことがある。李香蘭の体験を私も 80 年後に少し味わった訳である。

1939 年、24 歳の森繁久弥は NHK アナウンサーとして採用され、新京放送局に勤務したこともあるが、李香蘭とは出会っていない。1941 年の紀元節 2 月 11 日、李香蘭が有楽町の日劇でリサイタルを開いた時は、押し掛けた群衆がビルの周囲を七回り半取り巻く大騒動となる。

1942 年 7 月発売の『花白蘭の歌』という歌は、歌詞が♪薫りも高き白蘭の花の姿の清らけき心の人となれかしと母の願いの蘭花扇・・・と、李香蘭と楠

木繁夫が歌っているのだが、元歌は、エルネスト・デ・クルティスが作曲した『忘れな草 Non Ti Scordar Di Me』である。1935 年イタリア映画『忘れな草』の主題歌として使用され、名テノールのベニヤミーノ・ジーリが映画の中で歌ってヒットした。ところが、コロムビアレコード盤には、作曲：古賀政男、作詞：白井鐵造となっており、戦前は著作権などと言う概念が無かったからだろうか。クルティスは、『帰れソレントへ』の作曲者でもある。

■姑娘画

梅原龍三郎画伯が 1940 年頃、北京で李香蘭の肖像画を描いた際、『動かないで』と言い、『君の右の眼と左の眼は違っている。右の眼は自由奔放に突っ走っていて、左の眼は静かで恥かしそうな表情をしている』と言ったそうである。李香蘭は、目が大きくて金魚の“出目金”というあだ名もあった。

■コロラトゥーラ・ソプラノ

李香蘭が出演した映画は数多くあるが、終戦直前に北京と上海で数回だけ公開上映された『私の鶯』という幻の映画がある。通常の作品の5本分の費用と1年4か月の期間を掛けて作られた本格的音楽映画。ロシア革命から満州事変・満州国成立にかけてのハルビンの白系ロシア人社会やハルビン歌劇団が舞台となっており、ロシア語・中国語・日本語の会話が飛び交う。その中でロシア人バリトン歌手の養女役の李香蘭が歌う“私の鶯・モイサラベ”は一聞に値する。見事なコロラトゥーラ・ソプラノの喉を、ロシア語と日本語で披露している。コロラトゥーラとは、歌曲の中で速くて装飾が華麗に付いている部分をいい、ソプラノ歌手のうち、高い声をコロコロと転がすように歌える歌手を特にコロラトゥーラ・ソプラノと言う。佐藤しのぶや森麻季ほどの声量は無いものの、彼女の澄んだ歌声こそが永垂不朽（永遠に不滅）のレガシーであると私は確信する。李香蘭は、中国、東南アジアなどの各地で皇軍の慰問やリサイタルをしたが、その際、威儀を正して必ず最初に歌った歌は“荒城の月”だった。

■サヨンの鐘

李香蘭は、台湾が舞台の映画『サヨンの鐘』にも出ている。彼女が23歳の時、台湾の先住民・高砂族の17歳の娘サヨン（莎韻）役を演じている。赤紙が来て出征する日本人の先生をサヨンが見送った帰路、雨で濡れていた丸木橋で足を滑らせ川に落ちて

亡くなるという1938年にあった実話をもとに、1943年7月封切された松竹映画である。サヨンの鐘と慰霊碑が台湾の宜蘭県南澳郷の事故現場に建てられた。

■命の恩人

山口淑子は、1931年、11歳の小学6年生の遠足の列車の中で、同い年のリュバ・モノソファ・グリーンネッツに初めて出会って直ぐに意気投合し、生涯の友となった。リュバの親は、ユダヤ系亡命白系ロシア人で、菓子店を営んでいた。リュバは15年後の1946年、李香蘭が“漢奸”として上海で裁判に掛けられ、処刑されることを救った命の恩人である。戦勝国ソ連のリュバは丁度、上海のソ連総領事館に勤務しており、李香蘭の戸籍謄本を両親の居る北京と上海の間をとんぼ返りして取って来てくれた。日本人形の藤娘の帯の中に縫い込められて隠されていた。両親は日本人であることが判明し、『侵略して来た日本人が中国人を騙すのは当たり前だ。』という論理で無罪放免、国外退去となった。帰国の乗船直前、出入国管理官に李香蘭と見破られ、再度収容所に連れ戻されたが誤解は解けて、10日後に出国できた。李香蘭が1946年3月末、引揚げ船「雲仙丸」で黄浦江沿いにある上海港を離れた際、船上のラジオから流れて来たのは、何と！李香蘭の歌う“夜来香”だった。親日派軍閥の李際春は漢奸として中華人民共和国の成立後に処刑された。もう一人の名目上の義

理の父親となった潘毓桂は漢奸として捕まったが、国民党政府高官の経歴などがあった為、処刑は免れた。リュバとは、NHK番組『李香蘭遥かなる旅路』のディレクターがリュバの住居を探し当ててくれて、1946年上海で別れて以来53年ぶりに、1998年にロシア連邦エカテンリンブルクで、共に78歳になった二人は再会を果たした。リュバは翌1999年逝去。

(続く)



「サヨンの鐘」日本李登輝友の会より



映画『サヨンの鐘』で高砂族の身なりをした李香蘭
(ウィキペディアから)